Ⅴ　研究の成果と課題

１　アンケートの実施

（１）　調査の目的

人権学習を進めていくために，まず考えなければならないこととして「児童の実態」と「家庭・地域の実態」をしっかりと把握しておくことが揚げられる。児童や家庭・地域の実態，特に「児童・保護者の実態」については，毎年大きな変化はないが，学校生活の経験値や学習内容，人間関係の変化に伴い実態も変化するものとして捉えている。

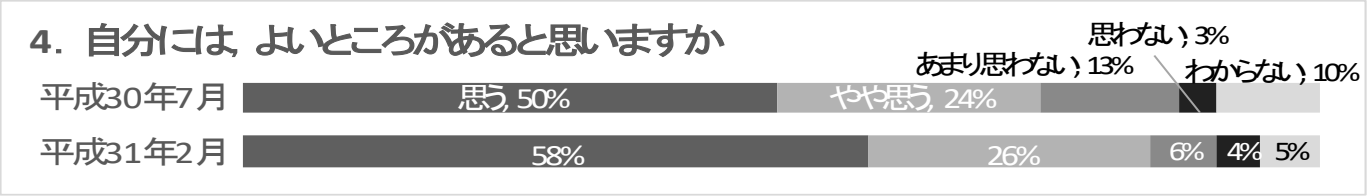
そこで，本校児童・保護者に「人権に関するアンケート」を実施することで，現時点における児童の実態を調査し，本校の課題を把握し，どのような視点に注目し人権教育を進めていけばよいかを調査するために実施している。

（２）　結果と考察

【結　果】

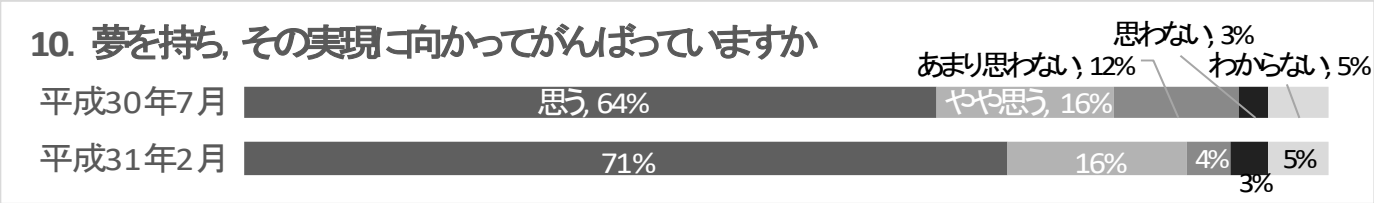
平成 30 年度にアンケート調査（Ｐ89 を参照）を２回実施した。その結果を比較し考察すると，設問項目によって多少の増減はあるものの，全体的に肯定的な回答が多く人権に関する意識の向上がみられる。

しかし，1 回目の結果より，項目 No. ４・No. ５・No. 10 については，本校の課題であると見取ることができた。



No. ４の項目（自尊感情を問う項目）において，１回目に実施した結果で肯定的な回答（思う・やや思う）が 74％で否定的な回答（思わない・あまり思わない）が 26％であった。２回目に実施した結果では，肯定的な回答が 84％で否定的な回答が 15％であったため，数値的には上回っていると見取ることができる。平成 31 年度（６月）に実施したアンケートの結果からは，肯定的な回答が 73％と 10％も下がっている。この原因としては，各学年における人権学習や意識を向上させるための取組の結果から，児童の意識が高まるとともに，自分自身を見つめ直す機会が多くなり，自分を客観的に見ることができるようになったためでないかと考える。

No. ５の項目（コミュニケーション力を問う項目）においては，１回目の結果から，肯定的な回答 76%，否定的な回答 24%で，２回目に実施した結果では，肯定的な回答 85%，否定的な回答 15%であった。本項目についても，数値的には上回っていると見取れる。平成 31 年度（６月）に実施したアンケートの結果からは，肯定的な回答が 90%であり５%の上昇があった。このことは，話し合う　機会を多く設定した授業や集会活動等を積極的に進め，児童自らも主体的に参加し少しでも多く関わろうとした経験からくる結果であったと思われる。



No. 10 の項目（将来への夢や展望を問う項目）においては，１回目の結果から，肯定的な回答 80%，否定的な回答 20%で，２回目に実施した結果では，肯定的な回答 87%，否定的な回答 12%であった。本項目についても，数値的には上回っていると見取れる。平成 31 年度（６月）に実施したアンケートの結果は，前回と同じ数値で変化がなかった。将来に向けての現状を問う項目であるため，半年や１年という短い期間での変容については見取ることが難しかったのではないのかと思われる。

【考　察】

アンケートの結果の項目ごとの否定的な回答の割合を，実際の児童数に置き換えてみたときに，１回目の結果より№４の項目（26%，約 38 人），№５の項目（24%，約 35 人），№10 の項目（20%，約 29 人）という人数となり，見過ごすことのできない値となっている。全ての児童が自信をもって楽しく学校生活が送れるようにするためには，これらを本校の課題として捉え，様々な視点からアプローチし解決を図っていかなければならないと共通理解した。

２回目に実施した結果からは，いずれの項目も数値がよりよい方向に向上しているため全校や各学年の取組の成果が現れてきているのではないかと思われる。

年度が変わっているため，前年度の結果と対照的に比較することはできないと思うが，特に No. ４の項目については，児童の意識をより改善していくための手立てに工夫改善が必要とされ，他の項目についても，これからも継続した取組を進めていかなければならないと考える。

保護者の 30 年度のアンケート結果については，全ての項目について大きな変化はみられないが，児童と同様に No. ４・No. ５・No. 10 の項目の変化をみたとき，いずれの項目も１回目の数値を上回っている（No. ４・86%→89%，No. ５・79%→82%，No. 10・69%→71%）ため，学校での取組が家庭においても成果として現れてきているのではないかと思われる。さらに，「人権学習は，他の教科同様に大切な学習だと思いますか。」という項目に対しては，95%の保護者が肯定的な回答であり，家庭や地域においては人権教育への関心や意識も高いと思われる。

人権に関するアンケート

(児童用)

※以下の項目について，あてはまる番号を○で囲んでください。

①：思う　②：やや思う　③：あまり思わない　④：思わない　⑤わからない

番号	項目	選択
1	・学校は楽しいですか。	① ② ③ ④ ⑤
2	・自分を大切にしていますか。	① ② ③ ④ ⑤
3	・普段から，友達の気持ちを考えるなど，相手を大切にした生活をしていますか。	① ② ③ ④ ⑤
4	・自分には，よいところがあると思いますか。	① ② ③ ④ ⑤
5	・自分の考えや思いを，誰かに伝えることができていますか。	① ② ③ ④ ⑤
6	・つらい思いをしたり困ったりしている人がいたら声をかけていますか。	① ② ③ ④ ⑤
7	・友達の間違いやいけない行動を注意していますか。	① ② ③ ④ ⑤
8	・人のいやがることをしてはいけないと思っていますか。	① ② ③ ④ ⑤
9	・感じ方や考え方など，人それぞれに違いがあることを認めることができていますか。	① ② ③ ④ ⑤
10	・夢を持ち，その実現に向かってがんばっていますか。	① ② ③ ④ ⑤
11	・命の大切さを理解していますか。	① ② ③ ④ ⑤
12	・人権学習は，他の教科同様に大切な学習だと思いますか。	① ② ③ ④ ⑤
13	・自分の住んでいる地域やふるさとについての学習は必要だと思いますか。	① ② ③ ④ ⑤

２　研究の成果と今後の課題

（１）　自己有用感に裏付けられた自尊感情の育成

①　児童一人一人のよさを見取り，個に応じた指導を継続し，それぞれが主役になる時間を設けた。１年生では「知らせたいこと」，２年生では「今日のすてき大発見」等，帰りの会を活用し，友達のよい行動を紹介し合うことを通して，児童相互によいところを見つけることができてきた。また，そのことを学年便りや電話連絡，家庭訪問等で保護者にも伝えることにより，家庭と連携し，自己有用感が得られる児童が増えてきているように感じる。これからも，自己有用感に裏付けられた自尊感情を育成するために，周りの人が温かく包み込んでくれていると実感できる環境をさらに整えるとともに，子どもたちの人権意識や人権感覚を育てていくことを大切にした取組を継続していきたいと考えている。

②　学級での役割分担を決め，当番活動と係活動の違いをはっきりさせ，やらされる活動ではなく，子どもたちにとってやりがいのある活動を実践させていくことに重点を置いて取り組んできた。役割分担の責任を果たすことで，子どもたちは達成感を感じ取るとともに，自分はかけがえのない存在だと実感できる。また，難しいことやできなかったことが力を合わせ助け合うことで解決していく実践力を養うとともに，がんばっている友達に気付き，かけがえのない仲間がいると思える経験を積み重ねていくことができてきた。これからも，１年生から６年生まで発達段階に応じて，一人一人が互いの個性を尊重し合い，共に生きる仲間として支え合える関係を築けるように支援していきたい。

（２）　異年齢集団活動の充実とコミュニケーション力の育成

①　本校では，全校児童 125 名を８班のユーカリ班（異年齢集団）に分け，仲間づくりや地域との連携を図った活動をしている。ユーカリ班は本校のシンボルツリーであるユーカリ樹から名付けられた。年度初めに各班で旗を作った。異学年での旗作りを通して，互いに協力していこうという気持ちが芽生えてきた。それとともに，６年生は学校のリーダーであるという自覚も見られ，５月に開催した運動会では，係活動にも積極的に取り組めた。６年生の姿を見て４，５年生も自ら進んで役割を果たす姿が見られた。６年生がモデルになり，６年生のような頼りになる存在に自分もなりたいという思いが育ち，「菊作り」や月一回の清掃活動を行う「キラキラ集会」等の活動においても，少しずつではあるが児童に主体的な行動が見られるようになってきた。

②　各学級の教室に，発表名人・聞き方名人等を掲示し，常に発表の仕方や聞き方を児童が意識することで，伝え合うことを大切にし，発言することができるようになってきており，コミュニケーション力の向上にもつながっている。９月に行われたユーカリ班活動の一つ「人権集会」の話合いでは，各学級で身に付いた力を発揮し，下学年の児童も自分の思いや考えを発表したり，しっかり相手の話を聞こうとしたりする姿が見られた。また，ホワイトボードを活用し，高学年が話し合う内容を可視化するとともに分かりやすく伝えることで，班の中で自分の考えを伝え合い深めることができるようになってきた。学級で身に付いた力が異年齢集団や全校活動等，様々な場面で発揮できるように，工夫ある取組を実施し，指導・支援を継続していきたい。さらに，ユーカリ班での活動を通して，言葉によって分かり合うためのコミュニケーション力の向上に努め，自分のよさ・相手のよさを認め合い，共に支える仲間づくりを今後もめざしていきたいと考えている。

（３）　地域のひと・もの・ことに触れる活動を通し，夢や希望をもつ児童の育成

①　１年生では，本との出合いをもとに視野を広げて，幼稚園児におすすめの絵本の読み聞かせを行い，相手を大切に思う気持ちを育成している。２年生では１年生と一緒に生活科等の活動を実施することによって自分の成長を実感するとともに，「素敵なまち探検」として地域の店を新聞形式で紹介することができた。３年生は，具体的な職業としてレタス農家さんを迎え，話を聞いたりレタス作りを体験したりすることによって，地域のすばらしさを感じ取るとともに，将来の夢や職業について考えることができた。４年生では「二分の一成人式」での成功体験から将来へのビジョンを見つめ直すことができた。５年生は地域の聞き取りや伝統芸能(獅子舞)を学ぶ中で，仲間の存在を信じ，共に将来に向かっていこうとする気持ちを高めることができた。６年生では，外国語の時間にも将来の夢について考えるとともに，今，何をするべきかを考える学習を，講師を招いて行う等，一人一人の進路決定への道を深めている。

②　学校の周辺には農業や商店等，学びの場が多くある。実際にレタス農家・寺・神社・稲作農家・菓子店等を訪ね，そこで働く方々の思いや考えを直接伺った。これはキャリア教育にもつながる。レタス農家の方から「ブランド名が付いているので，名前に恥ずかしくないレタスを作りたい」という作物に対しての熱い思いとプライドをもって作業されている姿に触れることができた。自分の身近で働く人の生き方や本物に触れる貴重な体験は，将来の夢や希望を実現させるとき，必ず自分を支える力になると信じている。

③　人権教育の目的に照らして体験的活動を位置付けることや体験したことをもとに話合いや発表の場を数多く設定している。子どもたちが自分の生活や自分の家族と重ね合わせて発言できるように支援するとともに，体験的活動の成果と課題が自覚できるようにしている。これからも，学校での活動にとどまることなく，地域の「ひと・もの・こと」と積極的に関わり，多くのことを学び，実践につなげ，尊敬や感謝の念をもてる子どもたちの育成をめざしていきたい。また，様々な体験学習を通して，学んだことの行動化・実践化を図る取組も積み重ねていきたい。そして，子どもたちが，自分のもつよさやすばらしい仲間がいることに気付き，地域との繋がりや，教育活動全体を通して人権感覚を磨いていけるようにしていきたい。そのため，児童も教職員もできるかぎり体験活動や様々な地域の行事に参加し，児童や保護者，地域や教職員が一体となった「チーム柿原」として日々の教育実践を重ねていくことができるように努めたい。

（４）　地域教材の継承と自作資料の開発

①　「徳島県人権教育推進方針」には，「これまで積み上げてきた，差別の現実から学ぶことや，フィールドワーク，体験的参加型学習，地域教材の開発，また学級の中で弱い立場の子どもを中心に据えた仲間づくり等，同和教育における成果や手法を今後も人権教育に活かしていく必要がある」と示されている。本校も，これらの手法を大切にし，学習したことが，単に知識・理解にとどまることなく，態度や行動に現れるように，児童の発達段階を考慮しながら取り入れてきた。特に，５年生と６年生で取り組んでいる地域教材は，先人の思いに共感し，自分のふるさとに愛着をもち，ふるさとを誇りに，仲間と共によりよく生きていこうとする意欲と態度を育てるものである。本校が，大切に受け継いできた地域教材から，地域の人たちの誇りある生き方に学び，自分も地域の人たちと同じような生き方をしていきたいという意欲につなげ，自分の未来を切り拓き，あらゆる差別を許さない，よりよい社会の実現をめざす児童の育成に取り組んでいきたい。

② 運動場の「ユーカリ樹」を取り上げた自作資料（紙芝居）を２年生が作成した。「ユーカリ樹」は，1887（明治 20）年頃に植えられ，百年を超えて柿原小学校の子どもたちを見守り励ましてきた。「ユーカリ樹」は，柿原小学校のシンボルであるとともに，子どもたち・教職員，保護者や卒業生の方々，地域の方々にとっても，大切な存在となっている。「ユーカリ樹」とともに「ユーカリ樹」に対する思いも新しい時代に受け継ぎ，「ユーカリ樹」とともに学校のよさを発信する紙芝居作りを通して，子どもたちは学校に誇りをもつことができるようになってきている。また，新学習指導要領に示されている「社会に開かれた教育課程」を実践するにあたり，教科横断的な視点での取組として，紙芝居作りは道徳科だけでなく図画工作科との関連も図っている。道徳科で培われた心が絵画として描かれることで，「ユーカリ樹」に対する思いや愛校心を強くし，学校や地域のよさの再発見につなげるためにも意義があると考えている。このような教科横断的な視点での学習活動は，他学年・他教科でも考えら，実施することができる。次年度に向け，年間計画等を作成し，系統的継続的な取組になるようにしたい。教育の成果は一朝一夕ではないが，新たな試みも行いながら地道に取り組んでいきたいと考えている。

（５） であい，ふれあい，つながり合い，共に考え高め合う児童の育成をめざして

① 今後も引き続き，本校の３つの課題（自己有用感に裏付けられた自尊感情の育成。コミュニケーション力の向上。将来への夢や希望をもてる児童の育成）は別々に解決していくのではなく，らせん階段のように相互に関係し，高め合いながら，育成していく必要がある。また今後も継続して人権に関するアンケートを実施・分析し，その結果に対応した手立てを工夫していくとともに，授業改善の１つとして行った，複数教員による道徳科・人権学習の取組を検証し，そのよさと問題点，特に打ち合わせや情報交換の時間をどう生み出すか等を，しっかりと検証して次年度につなげていきたいと考えている。

② 昨今の大きな地震や災害などのニュースを見聞きして，見えない未来に対して不安を抱く児童も増えてきている。そのため，常時指導において児童や保護者との信頼関係を築くことにより，できる限りそれらの不安を取り除き,安心して学校生活や家庭生活が送れるように指導している。具体的には，地震や不審者への対応について避難訓練や児童引き渡し訓練を実施し，時間をかけて丁寧に説明をしてきた。備えはできているのだから将来を不安に思わず，「今を大切にしていこう」といったポジティブな声かけをしたり，家庭や学校だけでは解決できない問題に関しては関係諸機関との連携をとったりする等，日々の生活を一歩ずつではあるが，よりよいものにしていく取組を続けている。これからも，学校・家庭・地域・関係諸機関がより一層連携を深め，継続して児童を見守っていくことにより，課題は解消していくと考えられる。共に歩みを止めることなく，将来への夢や希望を持てる児童の育成をめざして研究を進め，実践を積み重ねていきたい。

③ 教職員研修として実施している，フィールドワークは継続していくとともに，幼・小連携，小・中連携，教職員同士の連携も計画的に実施していきたいと考えている。また，個別人権課題に示されている高齢者・障がい者等の課題についても地域の施設等との交流を今後も継続するとともに，児童の実態に合わせた取組となるよう事前打ち合わせにも重きを置き，様々な体験的参加型学習を実施し，自分のよさや仲間のすばらしさに気付き，地域を誇りに思う児童の育成をめざしていきたいと考えている。そして，すべての人の人権が尊重される人権尊重社会の実現に向け，歩みを止めることなく進んでいきたい。